



第八卷第十號

女教師問題と保姆

女教師問題は今も尙未解決の問題である。或は經濟上利益であると云ひ或は勤務上に於ては到底男教員より劣位にあることを免れぬと云ふ。共に争はれぬ長所と短所とであつて是以外の點は如何様にも變化することが出来ても此二點は永く男女兩教員の差違であるだらうと思はれる。尤も未婚の女教員は時として既婚の男教員より優等なる勤務状態を呈することがないが併之を以て全斑を押すことの出来ぬことは勿論のことである。殊に家庭の主婦たる女教員は一方家庭に於ける其主婦たる任務を缺くにあらざれば到底優等なる勤務状態を呈することは出来ぬものである。故に吾人の見る所を以てすれば其夫が同一學校の教員ならざる限り主婦の女教員は到底通常の男教員と勤務上に於て其優劣を比較する資格なきものと云はざるを得ない。幼稚園に於ても此問題は早晩起り來るであらうと思ふが幸にして現在に於ては然したる論難の火の手の上らないのは蓋し現在の幼稚園の勤務時間が一般に學校よりも少ないのと幼児保育上の直接活動の外事務的附帶的勤務や下調べなどの成績檢閲だのと云ふものない爲めに致えて不都合のない爲めであらう。併し此有様は未來に於ても長く變化せぬであらうか疑はしいとである。吾人は早晩此状態の變化する秋が來るであらうと豫期して居る、又一方からは此状態を長く續かせぬとに私かに盡力したいと思ふて居る。何となれば現在の幼稚園に於けるが如き保育の方法は餘りに呑氣に過ぎて居る。之を改良すると共に保姆の任務は一層繁劇を加ふることは避く可からざると思ふたらうと思ふからである。未來の幼稚園保姆たらんとする人は覺悟する所がなければならぬ(湘南生)

香や